第１１８回　幻住庵俳句コンクール

番号	句	住所・氏名
101	枯蔦の手折るるときや音を放つ	
102	団栗を拾ふ子蹴る子通学路	大津市柳川一　園井　公子
103	音たてて表紙切りとる初暦	
104	大寒に芭蕉の草庵風流や	米原市坂口　堀居　美津子
105	松尾芭蕉長い階段経てたどりつく	
106	大寒に一年の計幻住庵	
107	苦むしる石段登り芭蕉を想う	米原市天満　園島　孝子
108	大寒に石山詣でや文想う	記名なし
109	冬の梅小説並ぶ祖父の部屋	
110	古書店の奥からもれる梅かおり	
111	姉の手をぎゅっと握り合否の日	栗東市中沢二　高城　巌
112	春落葉一枚入れて祖母へ文	
113	野に匂い岸辺に咲ける蝋梅	
114	綱の敷居に坐り下りいる	
115	そこに咲く寒良を摩て蒲くらべ	
116	住みつけてワタカが泳ぐ月明かり	
117	舞い揚る斬春ともに大笑いて	宇治市小倉町　伊豆　益一
118	つれあいと湯気ゆたかなる大根炊き	
119	幼児がかげろう見つけゆらゆらと	
120	鶴舌はおとろえ見えず正月も	
121	大海に光輝く明の春	
122	行く先に舞散る紅葉つれあいと	
123	石山の式部が愛でし桜見る	神戸市垂水区　天野　了一
124	ひよ鳥の声をいざなう水の音	
125	珈琲の香匂ふ梅鉢式部寺	半田市花園町六　横口　更二

第１１８回　幻住庵俳句コンクール

番号	句	住所・氏名
126	琵琶湖から春風吹いて石山寺	
127	秋月にかすかに光る琵琶湖かな	提奏郡提奏川町　香田　明彦
128	人力車褒棒とる手怜みて	
129	団十郎墓を睨みて年暮るる	
130	あるじ臭く犬も晴れ着よ初詣	
131	見守られ幼なの自転車初げいこ	
132	七福の名を唱えつつ粥を食ぶ	長浜市南千草丘五　河野　昔江
133	今日ひと日厨を離れ女正月	
134	スポーツに湧き踊きて年暮るる	
135	怜む手つなげば心あたたまる	
136	遠回りして山茶花の垣根径	
137	菩提樹の下陰照らす石路の群	
138	お正月アヒルが待っている仕舞風呂	
139	病室へいっせいメール去年今年	京都市伏見区竹田　本西　一代
140	歓へ日の歓の合はない椅と蓋	
141	山よりも湖しづかなる破魔矢かな	
142	備笑の半島いのるお正月	
143	ふと見たり冬将軍の太き眉	大津市別保二　田中　文子
144	茶の花や遠出叶はぬ母の靴	
145	初雪や疎水しづかな美術館	
146	お年玉孫は次々親になり	
147	四才児為たい放題初笑	
148	鼻はまだ老ひてはおらず金木犀	大津市光が丘一　大槻　幸嘉
149	一人居の救急車呼ぶ秋灯下	
150	車窓には皇帝ダリア柿捲わ	